

第9巻 第1号 (通巻第17号) 2020年12月発行

ISSN 2187-0292

# 埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 9, Number 1

2020

特集

第48回 埼玉透析医学会 PROCEEDINGS-2019



埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

# 埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 9, Number 1

2020

特集

第48回 埼玉透析医学会 PROCEEDINGS-2019

埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

# INDEX

---

|             |   |
|-------------|---|
| 巻 頭 言 ..... | 1 |
|-------------|---|

|            |   |
|------------|---|
| 特別寄稿 ..... | 3 |
|------------|---|

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 埼玉透析医学会 施設アンケート調査結果 ..... | 11 |
|---------------------------|----|

## 第48回埼玉透析医学会学術集会 PROCEEDINGS-2019

|                      |    |
|----------------------|----|
| proceedings 目次 ..... | 17 |
|----------------------|----|

|            |    |
|------------|----|
| 一般演題 ..... | 18 |
|------------|----|

|                |    |
|----------------|----|
| 学術集会開催記録 ..... | 59 |
|----------------|----|

|                 |    |
|-----------------|----|
| 2020年施設名簿 ..... | 60 |
|-----------------|----|

|                 |    |
|-----------------|----|
| 埼玉透析医学会会則 ..... | 62 |
|-----------------|----|

|           |    |
|-----------|----|
| 索 引 ..... | 64 |
|-----------|----|

|                  |    |
|------------------|----|
| 埼玉透析医学会 役員 ..... | 68 |
|------------------|----|

## 巻 頭 言

### 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックに思う



埼玉透析医学会 会長

松村 治

2020年はCOVID-19感染症のパンデミックにより世界が一変した1年でした。人の移動と接触が制限され東京オリンピック・パラリンピックをはじめ全ての学会・研究会が延期・中止を余儀なくされました。埼玉透析医学会総会ならびに関連研究会も今年は中止・順延とさせて頂きました。感染症のハイリスク集団である透析患者さんの治療に携わる者として、当初より感染の広がりや重症化を危惧していました。今までのところ透析患者さんのクラスター発生報告はなく、日本透析医学会の集計から致死率は15%程度と高いですが高齢者と同程度です。これも各透析施設の努力とCOVID-19感染患者受け入れ医療機関の尽力によるものと思います。埼玉県では感染透析患者発生当初より、さいたま赤十字病院の雨宮先生が中心となり埼玉県透析災害対策協議会のネットワークを活用して対応頂いています。この場をお借りして関係各位に感謝申し上げます。今回の経験から自然災害だけではなく感染症対策にもこのネットワークを有効活用できるように、埼玉県透析医学会に感染症対策委員会を設置させて頂く事としました。雨宮先生を委員長として災害時対策協議会ブロック代表の先生方に委員を兼務頂き、スムーズな運用ができるように学会がバックアップしたいと考えます。何卒、ご理解ご協力の程をお願い申し上げます。

今までに人類が撲滅できた感染症は、1980年に撲滅宣言された天然痘だけです。WHOは2030年に肝炎撲滅を目指していますが、今年のノーベル医学生理学賞はC型肝炎ウイルス発見の3氏でした。血液を介する感染症がなくなっていくことは喜ばしい限りで、HIV感染症も適切な治療により寛解導入できるものとなっています。HIV感染はCKDのリスクファクターであり、近年HIV陽性の末期腎不全患者が増加しています。本年1月に大宮で厚生労働行政推進調査事業としてHIV感染症の医療体制の整備に関する研究班による「HIV感染症の受け入れを阻むものは何か？」というテーマのシンポジウムが開催されました。県内透析関係者の参加が少なく残念でしたが、直近の課題を提示された会となりました。HIVの感染経路は多様化しており、透析導入時に初めて感染が見つかることも珍しくないようです。また、HIV感染症が第2のハンセン病となる危険性を指摘する声もありました。HIVの感染力はC型肝炎ウイルスの1/8程度と弱く、治療による寛解状態では感染源とはならないこと、さらに針刺し事故などでの予防内服法も確立されています。この様な状況にも関わらず、HIV陽性透析患者の受け入れ先探しは難しい状態です。今回実施させて頂いた施設会員へのアンケート調査でも明らかなように、HIV検査を実施している施設は少なく、医療機関がHIVから目を背けている印象さえあります。寛解療法の確立しているHIV感染症を見落とすことなく適切な医療を提供することは医療者の努めです。まずは術前検査にHIVを加えてHBV、HCVと同じように情報が共有されるようにしたいものです。そしてHIVに関する最新の正しい医学知識を習得し偏見のないオープンな議論ができるようになれば問題は解決すると思います。

COVID-19感染の終息にはしばらく時間がかかると思われます。こうした状況下での新しい埼玉透析医学会の在り方を考える必要があり、幹事会を中心に議論を進めたいと思います。最後になりましたが、引き続き本学会へのご支援をお願いすると共に会員各位の健康を祈念申し上げます。

2020年10月吉日



## 編集後記(第9巻 第1号)

埼玉透析医学会雑誌第9巻1号をお届けいたします。本年はCOVID-19パンデミックにより、本会学術集会および関連学会が相次いで開催中止となり、本誌の発刊も危ぶまれたのですが、松村会長の強いご意向とご執筆いただいた先生方のご尽力により、発刊にこぎつけることができました。厳しい日程の中、特別寄稿を寄せられた先生方にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

今号は、構成を大幅に変更し、前年度の本会学術集会のプロシーディングに加え、次期大会長竹田徹朗先生、埼玉アクセス研究会会長中川芳彦先生、そして埼玉県透析 COVID-19対策の中心となって活躍されている雨宮守正先生から寄せられた特別寄稿を掲載いたしました。いずれも大変興味深い内容となっておりますので、会員みなさまの明日からの臨床にお役立ていただければと思います。また、先日実施した会員アンケート結果も合わせて掲載致しましたのでご一読ください。

2020年11月1日現在、国内のCOVID-19患者が急増しており、「第3波」の襲来といわれています。臨床の最前線で奮闘されている会員みなさまのご負担も日々大きくなっていると思います。特定の施設にご負担を強いることなく、会員全体で支え合い、埼玉県透析医療を守っていきましょう。来年は学会場でみなさまにお会いできることを楽しみにしております。

埼玉透析医学会 事務局  
埼玉医科大学病院 腎臓内科  
友利 浩司

### 埼玉透析医学会 会誌

発行 日：2020年12月1日

発行 行：埼玉透析医学会

発行 人：松村 治

編集 集：埼玉透析医学会 事務局

事務局：埼玉医科大学病院 腎臓内科

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

TEL：049-276-1611 FAX：049-295-7338

URL：http://www.ssdt.jp/

E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

編集責任者：友利 浩司

編集委員：小川 智也、金山 由紀、佐々木 裕介、  
伊佐 慎太郎、村杉 浩

出版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

定価：2,000円＋税

